

Nat. Hist. Soc., 81 (2): 355-362.

- 11) Wada, K. and Matsuzawa, T. (1986):
A new approach to evaluating troop
deployment in wild Japanese monkeys.
Intern. J. Primat., 7: 1-16.

研究報告・その他

- 1) 野澤 謙, 庄武孝義 (1985): 中部山岳地帯南部のニホンカモシカの遺伝的変異, 特に木曽川両岸集団間の遺伝的分化について。昭和59年度科学研究費補助金 (総合研究A課題番号 58362001 研究成果報告書: 295-303.

学会発表

- 1) 庄武孝義, Mewa Singh, 川本 芳, 早坂謙二, 野澤 謙 (1985): シシオザル (*Macaca silenus*) の遺伝的変異性。第39回日本人類学会 (筑波)。
2) 庄武孝義, 天野 卓, 並河鷹夫, Cyril, H.W. (1986): スリランカ在来山羊集団の体型・外形形態および血液蛋白の遺伝子構成。第78回日本畜産学会 (筑波)。
3) 庄武孝義, 野澤 謙, Mewa Singh, Cyril, H.W., Crusz, H. (1986): アジアゾウ2亜種間の遺伝的分化。第78回日本畜産学会 (筑波)。
4) 和田一雄 (1985): 志賀高原におけるニホンザルの冬期における泊まり場でのグルーピングについて。乳動物学会・乳類研究グループ合同大会 (札幌)。
5) 和田一雄, 羽山伸一, 中岡利泰, 宇野裕之 (1985): サケ定置網におけるアザラシ被害の実態——ノサップ岬を例に——。ゼニガタアザラシの生態と保護に関するシンポジウム (札幌)。
6) 羽山伸一, 宇野裕之, 和田一雄 (1985): 北海道根室半島におけるゼニガタアザラシ回遊群の年齢構成と回遊様式。ゼニガタアザラシの生態と保護に関するシンポジウム (札幌)。

生活史研究部門

河合雅雄・杉山幸丸・大沢秀行・森 明雄・丸橋珠樹¹⁾

研究概要

- 1) 西アフリカ熱帯多雨林および乾燥サバンナの狭鼻猿類の社会生態学的研究

河合雅雄・大沢秀行・森 明雄

西アフリカ・カメルーン国南部の熱帯多雨林においてマンドリルの採食生態, コミュニケーション, 社会構造の研究が継続中であり, さらに同所に生息する樹上性の7種の霊長類についても森林適応の観点から調査が行われている。今年度の調査では同所に生息するチンパンジーが餌付き始めた。これは, チンパンジーの研究では第3番目の亜種で, これまでにはあまり調査されておらず, 今後の研究の発展が期待できる。

同国北部の乾燥サバンナにおいてはパタスモンキーの調査を行っている。パタスモンキーは単雄群型の社会をもつサバンナに適応した種であり, その社会変動のメカニズムおよび草原適応に関する研究を進めている。さらに熱帯多雨林での研究との相互比較によって各種の異なる環境への適応様式が明らかにされつつある。

- 2) ニホンザルの個体群動態および採食生態学的研究

杉山幸丸・大沢秀行・森 明雄・丸橋珠樹

高崎山の餌付け個体群を対象に個体標識による継年追跡を続行中であり, 詳細な人口学的パラメーターを算出し生命表を完成しつつある。このような個体群の変動量の把握と同時に, 採食量の調査を林内追跡によって開始した。一方, 霊仙山では餌付け中と餌付け放棄後の個体群動態が細部に及んで比較検討され, 各社会階層との関連において追及されている。また屋久島永田地域では野生群において採食行動を通じた個体間関係と社会構造・個体群動態の究明が進められている。

幸島群においては, これまで行ってきた個体の体重変動の継続調査の結果を採食行動に関する資料と関連させながら分析を進めている。

- 3) 動物における子殺しの社会生態学的研究

杉山幸丸

ハヌマン・ランゲールで最初に確認された野生動物 (哺乳類) 社会における種内子殺しの近因と遠因, その相互関係を, 野外調査を交えながら理論的に考察している。

4) 西アフリカチンパンジーの行動生態学的研究

杉山幸丸

西アフリカ・ギニアにおける野生個体群の現地調査を1976年から続け、全個体識別による出生・死亡・消失・移出入等の個体群動態の長期的把握を進める一方、道具使用・捕食・あいさつ等のチンパンジーの特異的行動とその変化を追跡している。さらにカメルーンにおいても、痕跡による道具使用の調査を行い、まとめた。

5) ニホンザル幸島群における文化的行動の研究

河合雅雄

幸島の群れにみられるイモ洗いなどの文化的行動は、給餌を極力押さえたことから十数年中断していたが、この種の研究を再開して資料の収集を継続し、獲得行動の持続、習得過程、行動のバリエーション、新しい行動の開発等について年齢、血縁関係、ステータスを基に分析を進めている。

総 説

- 1) 河合雅雄(1985):サルからヒトへく第Ⅱ部-4>創造の世界, 54, 162-191。小学館。
- 2) 河合雅雄(1985):サルからヒトへく第Ⅱ部-5>創造の世界, 55, 162-179。小学館。
- 3) 河合雅雄(1985):サルからヒトへく第Ⅱ部-6>創造の世界, 56, 124-141。小学館。
- 4) 河合雅雄(1985):霊長類の生態。江原昭善他編“霊長類学入門”:254-298。岩波書店。
- 5) 河合雅雄(1985):日本霊長類学会の誕生。霊長類研究, 1:1-3。
- 6) 河合雅雄(1986):サルからヒトへく第Ⅱ部-7>創造の世界, 57, 114-137。小学館。
- 7) 杉山幸丸(1985):ニホンザルの生態・個体群生態。江原昭善他編“霊長類学入門”:298-319。岩波書店。
- 8) 杉山幸丸(1985):日本霊長類学会の発足。生物科学ニュース, 168:3-5。
- 9) 杉山幸丸(1985):日本霊長類学会の発足とその背景。霊長類研究, 1:39-44。

- 10) 大沢秀行(1985):現代生物学大系12a, 生態A, 高等動物の社会構造, a, 霊長類。267-267。
- 11) 大沢秀行(1985):現代生物学大系12a, 生態A, 高等動物の社会構造, c, 有蹄類。272-273。

論 文

- 1) Sugiyama, Y. (1985): The brush-stick of chimpanzees found in south-west Cameroon and their cultural characteristics. Primates, 26: 361-374.
- 2) Ohsawa, H. and Dunbar, R.I.M. (1984): Variations in the demographic structure and dynamics of gelada baboon populations. Behav. Ecol. Sociobiol., 15: 231-240.
- 3) 丸橋珠樹, 山極寿一, 古市剛史(1986):屋久島の野生ニホンザル。東海大学出版会。201pp.

学会発表

- 1) 杉山幸丸(1985):新しく発見したチンパンジーの道具, 閉つき掘り棒とチンパンジーの文化。第22回日本アフリカ学会, 東京。
- 2) 森 明雄(1985):カメルーン国における森林性霊長類の採食生態。第32回日本生態学会大会。
- 3) 丸橋珠樹(1985):ヤクザルと森一種子散布と食害枯死。第32回日本生態学会大会。
- 4) 宮藤浩子, 河合雅雄(1985):マンドリル(*Mandrillus sphinx*)の地上食について。第32回日本生態学会大会。

生理研究部門

大島 清・目片文夫・林 基治・野崎眞澄・清水慶子¹⁾

研究概要

- 1) マカクザル胎児の感覚系発達に関する生理学的研究

大島 清・清水慶子

- 1) 教務職員